

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市中央療育センター	評価対象年度	令和元年度
事業者名	・事業者名 社会福祉法人 同愛会 ・代表者名 理事長 高山 和彦 ・住所 横浜市保土ヶ谷区上菅田町金草沢1749	評価者	障害計画課長
指定期間	平成28年4月1日～令和3年3月31日	所管課	健康福祉局障害保健福祉部障害計画課

2. 事業実績

利用実績	通園定員 100名 通園契約児数 204名 (前年度契約児: 247名※) 入所定員 50名 令和元年度末 46名 (前年度末: 41名) 短期入所定員 10名 令和元年度延べ利用数 968名 (前年度: 1,867名) 診療所利用児数 年間延べ12,229名 (前年度延べ12,568名) リハビリ・検査実施数 年間延べ11,507名 (前年度延べ10,705名)		
※平成30年度の年度評価作成時は426と表記したが、法人より情報訂正の申告があり247へ変更を行った。			
収支実績	【収入】 (通所+入所) ○給付費等 179,927千円 ○医療費等 222,008千円 ○指定管理委託料 561,179千円 ○その他 34,551千円 計 997,665千円	【支出】 (通所+入所) ○人件費 713,667千円 ○事務費 102,102千円 ○事業費 93,184千円 ○固定資産 22,877千円 ○繰入金 45,000千円 計 976,830千円	収支差額20,835千円 (端数処理のため微差があります。)
サービス向上の取組	・入所部門では難病児の受け入れを行い、安全な支援に向けて環境面を整えると共に、職員の支援知識・技術を習得するよう教育を行った。 ・地域支援では第2第4土曜日に施設の地域開放を行ったり、幼稚園・保育園との連携強化に向けた訪問活動を行うなど、地域における公益性を意識した活動を継続した。 ・通所部門・入所部門の一体的な運営の利点を生かし、通所部門専門職による入所児童のケアを行うなど相互連携して、利用者のサービスの質向上に努めた。		

3. 評価 (評価段階: 5~1, 標準: 3, 加点割合: 5→100%, 4→80%, 3→60%, 2→40%, 1→0%)

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
総合的な運営状況	利用者への支援	利用者に対する支援を着実に実施しているか	10	4	8
		利用者の障害特性に応じた個別支援等を実施しているか			
	事業成果	基本協定に規定する業務の範囲を適切に実施しているか	10	3	6
		指定管理施設としての事業目的を達成することができたか			
(評価の理由) ・入所児童の生活面における指導について、児童相談所と連携の上、適切な対処を行った。 ・通所部門では難聴児を対象とする言語発達とコミュニケーション力の獲得を狙いとする難聴児クラスを運営し、利用者ニーズへの対応に努めた。 ・入所部門では入所児童の生活の場としての充実を図り、季節行事や住空間の工夫を試みるなど、入所児童の気持ちに寄り添った支援が企画された。 ・診療所では、要望や意見に柔軟に対応し、担当医の見直しや医療度の高い利用者へ支援が安全にできるよう、療育前に保育室で医師が診察や体調管理を行う方法を導入した。					
収支状況	支出状況	計画に基づく適正な支出が行われているか	5	3	3
		支出に見合う効果等が図られているか			
	収入状況	計画通りの収入が得られているか	5	3	3
		条例に基づく利用料等を適切に徴収しているか			
適切な会計手続	会計基準に基づく会計処理がなされているか	5	3	3	
	事業収支に関して適正な会計処理が為されているか				
(評価の理由) ・歳出入予算と歳出入決算額の変動率が2%未満であり、計画的な予算執行が実施された。 ・引き続き法人内部監査室による監査と外部公認会計士による監査を行い、厳格な経理業務の運用を行った。					

サービス向上及び業務改善	適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	10	3	6
		利用者への支援を適時かつ十分に行っているか			
	サービス向上への取組み	現状分析、課題把握等を常に行っているか	5	4	4
		サービス向上に向けた取組みがなされているか			
	利用者の意見・要望への対応	意見・要望の収集方法を確立しているか	5	3	3
利用者からの要望や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか					
(評価の理由) ・所内の組織機構としてヒヤリハット・防災・給食・行事・衛生・虐待防止等の各種委員会を運営し、活動計画の立案や取組み内容の検証を実施し、サービスの向上に努めた。 ・通所部門では利用者からの要望は意見箱や懇談会での収集を行い、誠実・迅速・丁寧な対応に努めた。					
組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員が必要な場所に適切に配置されているか	5	3	3
	連絡・連携体制	所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修等が行われているか	5	4	4
	安全・安心への取組	事故、犯罪、災害等から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	5	3	3
		緊急時の連絡体制を構築しているか			
	コンプライアンス	法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
	職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか	5	4	4
(評価の理由) ・研修体系を整理し、福祉従事者としての意識形成や応接、福祉・医療・児童心理などの知識や技能の習得を目的としたスキルアップ研修、管理職マネジメント研修など研修機会の確保に努めた。 ・外部産業医の導入やハラスメント防止啓発・職員相談窓口の周知活動に注力するなど、法人組織で率先して労働環境改善の維持・改善の取組みが推進されていた。 ・各施設に規則規程集を必置にし、グループウェアを活用した閲覧環境を用意して、全職員に徹底を促すことで法令遵守の適切な運用を行った。 ・職員の採用手法を変更し、従来の法人全体採用から療育センターに勤務地を限定した採用を行った。これにより療育センターでの従事に高い志向を持つ職員の採用が行え、新年度より入職を予定している。					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか。	5	3	3
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか	5	3	3
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか	5	3	3
(評価の理由) ・保守点検を丁寧に行い、保育室の床の亀裂や園庭の段差補修・大型遊具の適切な入れ替え調達を行うなど、施設の安全性を確保した。 ・木の剪定や建物の景観についても周辺地域に配慮の上、適切な管理を行った。					

4. 総合評価

評価点合計	65	評価ランク	C
-------	----	-------	---

評価点合計:100点満点,標準点:60点

評価ランク:A~E,標準::C,A→80点以上,B→70点以上80点未満,C→60点以上70点未満,D→50点以上60点未満,E→50点未満
A→特に優れている,B→優れている,C→適正である,D→改善が必要である,E→問題があり適切な措置を講じる必要がある。

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

・令和2年2月14日に入所部門を対象として事業所実地指導を受け、事業所の適切な運営が確認されたことから、業務改善が見られたと評価ができる。
・昨年度の指導事項として示した職員育成環境の拡充について、採用手法の工夫や職員のメンタルケアを目的とした定期面談の履行など、課題を意識した改善活動の試みが見られた。
・地域ニーズの変化や増加がある中で、保育園や幼稚園等への訪問をはじめとした機関支援による地域支援の推進や電話相談への対応など、市内における中核的機関としての役割を意識して業務遂行にあっていた。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

・権利擁護の意識を職場内で醸成し、不適切な支援の防止を徹底すること。
・引き続き職員の労働環境の改善に努め、待遇の整備、研修などの職員育成環境の拡充し、支援の質と職場環境の充実の両立に努めること。